



今号の紙面から ● 3面 10月は乳がん予防月間です ● 5面 認知症とともに生きるまちづくりに関する連携協定を締結

東京2020大会

レガシーを次世代へつなぐ

東京2020大会はコロナ禍での開催となりました。オリンピック聖火リレーの公道走行中止に始まり、予定していた多くのイベントが中止せざるを得ない状況の中、町田市では、オリンピック聖火の点火セレモニー、パラリンピック採火式を実施しました。またオンライン壮行会や、関係者のみによる町田市ゆかりのアスリートの応援、オリンピック自転車競技(ロード)の応援装飾など、制約のある中でも工夫して、みんなで大会を盛り上げました。

大会終了後も、2023年に結成10周年を迎えるまちだサポーターズの活動や市内小学校で開催しているパラバドミントン体験教室など、東京2020大会のレガシーは次世代に受け継がれます。今後も、次世代アスリートの活躍が期待されるなど、スポーツの盛り上がりはまだまだ続きます。

問 オリンピック・パラリンピック等
国際大会推進課 ☎ 724・4442

STEP3 一つになった種火は都庁に
集められ、ひとつの灯に



STEP1 子ども関連
施設で種火を作る様子



東京2020
パラリンピック聖火
(まちだの火)採火式



STEP2 市内の障がい者施設、子
ども関連施設から集められた種火



東京2020オリンピック
聖火リレー
点火セレモニー

東京2020大会レガシー1

まちだサポーターズ



7月24日、25日に開催された東京2020オリンピック自転車競技(ロード)では、延べ397人のまちだサポーターズがコースサポーターとしてコース設営のための資機材を設置し、歩行者の通行を確保する役割を担っていただきました。また、インドネシアパラバドミントンチームの事前キャンプの公開練習の際には、見学者の受け付けや座席の消毒など、陰に日なたに活躍されました。今後も、スポーツをはじめとする町田市のイベントを支える存在として、活動の際には、一目でボランティアと分かるそろいのユニホームを着用し、活躍していただきます。

東京2020大会レガシーと次世代アスリートの紹介は、2面に続く